

第28号

2004年9月25日 発行

発行所 財団法人小山台

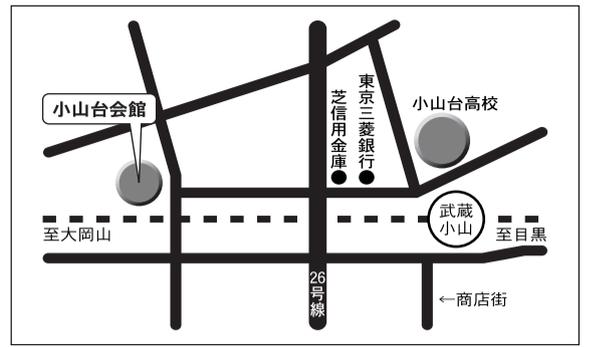
〒142-0062 東京都品川区小山4-11-12

TEL03(5721)6171 FAX03(5721)6173

発行人 理事長 福川伸次

編集人 理事・事務局長 岸本博道

財団法人小山台 会報



変化を読む感性を磨こう



財団法人小山台
理事長
福川 伸次

小さな源流が次第に大河となるように、僅かな変化がやがて大変革につながることもある。明治維新以来、近代国家形成に走り始めていた日本が米英中などを敵に回して軍事国家の途を歩み始めるのも、当初は、一部の軍部が大陸への野望を懐いていたからである。

日本が、1980年代までは素晴らしい経済パフォーマンスを示して「ジャパン・アズ・NO.1」といわれながら、90年代に「失われた10年」という経済停滞に陥ったのも、世界のIT革命とグローバル化の傾向を読み誤り、日本人の間に「おごり」の気持ちが蔓延してしまったからである。

日本は、今日に至るまで金融システムの不安に悩まされてきたが、これも初期段階にその変化を予測して抜本策を講じていれば、こ

れ程の深手を負い、国全体が苦悩することにはならなかったことであろう。企業をみても、栄えるものもあれば、落ちぶれていくものもある。そうした変化も、当初はほんの少しのきっかけによるものだろう。経営者の一寸した気の緩み、社員の僅かの不満などに起因することが多い。

最近、青少年犯罪が増加しているが、凶悪犯罪に走るものも、当初は一寸した出来心による微罪程度のものだという。ニューヨークのジュリアーナ前市長が市内の犯罪を一掃するのに、交通違反など僅かな犯罪でも見逃さないという強い態度をとったことは、我々にとっても一つの教訓である。

高校や大学の評価をみると、この50年の間に大きく変化した。評判の良くなったものもあれば、落としたものもある。しかし、概していえば理数などで国際水準で上位にあるものもあるが、日本の青少年の学力は低下傾向にあるという。米国などの一流の大学や大学院の教授にいわせると、日本からの留学生の能力は、中国や韓国などアジアからの留学生

に比べると、最近では劣位にあるという反応が返ってくる。最近、確かに景気は回復してきたが、長期にみると日本の先行きに不安を感じさせる変化が社会に起こりつつあるのかもしれない。

学力の低下ばかりではない。自殺も増えているし、フリーター志望が増加している。家族の絆も弱くなっている。

年金問題が政治の主要課題になっているが、政治の実態をみると政策の構想力も、合意の形成力も低下している。21世紀の世界は、20世紀と比べものにならない程、不確実の時代となる。政治はそれを事前的に察知して最適解を見出す力を果して備えているだろうか。

今我々が最も努力しなければならないことは、僅かな変化を読む感性を研ぎ澄まし、そうした変化を絶えず正しい方向に統合していく知性を備えることである。それを怠ると、日本は、世界で2流、3流の存在に落ちぶれてしまうだろう。

そうした感性と知性は、教育はもとより、社会全体の意識と価値観によって高められるのである。私は、我々が組成する公益法人やNPOが、今後益々重要な役割を担うことになると考えている。

新時代へ—— 求められる新たな発想



財団法人小山台
監事
小島 章伸

バブルがはじけて十余年、日本経済は「大停滞」に苦しみあえいだ。ゼロ金利時代が続く、財団の資金運用にとってはまさに受難の時代であった。しかし昨年から今年にかけて景気の回復は本物になりつつある。“失われた十年”を脱し、ようやく夜明けを迎えたよ

うだ。一方では2001年「9・11」の米国テロ多発事件以来、世界新秩序作り模索の中で世界も日本も時代の転換期を実感し始めている。昨年40周年を祝い、“不惑”を越えた(財)小山台も新時代に向かつての発想の転換を求められているのではないか。

私が(財)小山台の運営に関わって八年余りとなる。その間、日本は活気あふれる世界の高度成長の大潮流から取り残され、暗く厳しい調整過程にあった。経済社会はリストラ、リストラで縮み志向に終始した。

役員を勤めるいくつかの財団で親企業が倒

産し清算に追い込まれたところもあるし、親企業からの寄付ストップで事業活動の大幅縮小を余儀なくされたところもある。高利目的でエンロンやアルゼンチン債に投資して失敗、執行部の責任問題となったケースもある。逆に収入確保に重点がかかり過ぎて財団の本来の使命達成がおろそかとなり、執行部批判に発展したところもあった。

しかしそんな情勢の中で「小山台」は誠に恵まれた財団といえる。戦後の混乱期、当時の保護者の浄財によって買い取った学校内敷地が62億円という基本財産に生まれ変わった(平成2年)ことが何ととっても大きい。平成14年度の資産総額上位100財団のうち(財)小山台は33位(75億8千6百万円)にランクされている。堅実な資産運用により、引き締めは続けながらも寄付行為に基づく事業活動は定着し、着実に実行されてきた。大停滞期に「小山台」の基礎固めが進んだのである。各母体出身者のボランティア活動による“手作り財団”の姿ができ上がった。監事の立場としては常に「緊張感のある信頼関係」を心がけているが、「小山台」の監事に心配事はない。嬉しいことである。

そして今、外需から始まった景気回復は、設備投資と個人消費を柱に民間部門による自立的な回復軌道に乗ろうとしている。福井日銀総裁も「日本経済の苦難もついに終点に近付きつつある」と宣言した。金利情勢も序々に変わりつつある。財団運営に当たり強い挑戦のときが訪れたと受け止められている。

もちろん運営委員会では平成17年度予算編成に当たって「すべての事業を見直そう」との前提で取り組んでいる。その姿勢やよし。ここは寄付行為の原点に立って公益法人としての将来像を確りと描き、新しい発想で各種事業を見直して欲しいところだ。

例えば国際交流事業についていえば、アジアとの交流のあり方なども検討課題となつてこよう。かつてドイツのシュミット首相は「将来にわたって日本の最大の問題はアジアに真の友人を持たないことだ」と私に語ったことがある。仏独枢軸でEU連合を推進した人の言葉だけに説得力がある。青少年教育の場でどう根付かせていくか。また小山台高校の支援についても将来の日本を担う真の人材輩出に向かつて新たな工夫が望まれる。

環境好転とはいえまだまだ不確定要素は消えていない。米国景気と利上げ、中国の過熱の引き締め、主権移譲後のイラク情勢など地政学リスクと原油高、拡大EUと米欧関係、そして11月米大統領選挙の結果とユニラテリズム(単独行動主義)の行方——等々。それらを注意深く見守りつつも時代の変化への対応に遅れをとることのないようにしたい。

平成15年度 事業報告

平成15年度の日本経済は、後半にかけて明るさが増してはきたが、依然として超低金利が続く中で資産運用収入はさらに減少した。このような環境のもとで予算の更なる効率的な使用を心がけた結果、前年度を若干上回る規模の事業を実施することができた。その主な概要は下記の通りである。

1. 国際交流事業

①海外派遣・受入

- イ. 英語語学研修派遣
高校生・大学生21名を3週間、ボーンマスの語学学校に派遣
- ロ. 英国ブリッドポート・ユースセンターとの交換留学
今年度は派遣の年で、高校生・大学生7名を3週間ホームステイで派遣
- ハ. 英国ミドルズブロウ市教育局との交換留学
今年度は派遣の年で、高校生・大学生7名を3週間ホームステイで派遣
- ニ. ドイツベルリン市カニジウス校との交換留学
今年度は受入の年で、高校生・大学生10名を3週間ホームステイで受入れ
- ホ. 青少年国際交流推進派遣
ドイツベルリン市およびキール市に、学校や社会施設等の訪問や教育関係者との意見交換等の交流のため、高校・中学の教員を中心に9名派遣

②外郭組織援助

事業に協力する組織の育成を計り、事業の中核として当財団に寄与する人材を育成することを目的として、海外派遣経験者の会および受入家庭経験者の会に援助

③国際交流他団体助成

- イ. (財)日本教育映像協会が小学生・中学生・高校生を対象に行っている「留学生が先生」教育プログラム費用の一部助成
- ロ. 都立高校国際交流事業助成
学校の事業として継続的に国際交流事業を実施して間もない都立高校を対象にその費用の一部を助成
- ハ. その他の団体助成

2. 社会教育事業

①公開文化講座の開催…次のテーマで7回実施

- 第1回 カラーセミナー「似合う色・役立つ色」
- 第2回 漫画芸術講座「マンガの心教えます」
- 第3回 アロマセラピー入門「植物の香りをハンドトリートメントで体験」
- 第4回 歴史散歩 (1) 芝増上寺から愛宕山へ
- 第5回 歴史散歩 (2) 大井から大森へ
- 第6回 音楽レクチャーコンサート (1)
- 第7回 音楽レクチャーコンサート (2)

②都立小山台高校プラスバンドの都民公開コンサートの費用を助成

3. 学校教育事業

①都立小山台高校への助成

進路・学力向上関係、学校PR関係、運動会・合唱コンクール等の行事関係、夏季合宿・部班活動関係、講習会・コーチ指導関係、その他

②中学向け事業への助成

③育英事業

- イ. 一般奨学金
旧第1学区を中心に都立高校生39名に年間15万円、合計585万円を給付
- ロ. 緊急奨学金
緊急に援助が必要になった生徒1名にイ.と同様に給付

4. その他

- ①広報
会報を年1回発行、業務・財務に関する情報をホームページで公開
- ②会議室・ホール等施設を開放
- ③その他

〈収入の部〉		〈支出の部〉	
科目	金額	科目	金額
前期繰越額	86,656	事業費	55,634
資産運用収入	106,741	国際交流事業	29,113
その他収入	7,772	社会教育事業	1,636
		学校教育事業	19,339
		小山台高校助成	11,199
		他高校向け助成	1,000
		中学校向け事業	1,117
		育英	6,023
		広報費	1,682
		その他	3,864
		管理費	47,972
		減価償却等引当金	16,207
		次期繰越額	81,356
合計	201,169	合計	201,169

〈資産の部〉		〈負債・正味財産の部〉	
科目	金額	科目	金額
流動資産合計	98,986	負債合計	10,412
預貯金	98,986	流動負債合計	261
固定資産合計	7,483,533	源泉税等預り金	261
基本財産合計	7,265,787	固定負債合計	10,151
有価証券	6,227,251	退職給与引当金	10,151
預貯金	37,117		
土地	654,650	〈正味財産の部〉	
建物	401,137	正味財産合計	7,572,107
建物の減価償却累計額	▲54,368	基本財産	7,265,787
その他の固定資産合計	217,746	剰余金合計	306,320
有価証券	200,000	事業拡大積立金	200,000
預貯金	10,151	その他剰余金	106,320
器具・備品	24,964		
器具・備品の減価償却累計額	▲17,369		
資産合計	7,582,519	負債・正味財産合計	7,582,519

平成16年度 事業計画

平成16年度も引き続き超低金利の状況が続くことが予想され、収入の大半を占める資産運用収入の減少は不可避であるので、事業計画および予算策定に当たって更に厳しい見直しを行った結果、予算規模では対前年度比98.5%となった。実施を計画している事業の概要は下記の通りである。

1. 国際交流事業

①海外派遣・受入

- イ. 英語語学研修派遣
高校生・大学生21名を3週間、ボーンマスの語学学校に派遣
- ロ. ドイツベルリン市カニジウス校との交換留学
今年度は派遣の年で、高校生・大学生10名を3週間ホームステイで派遣
- ハ. 英国ブリッドポート・ユースセンターとの交換留学
今年度は受入の年で青少年を中心に7名を3週間ホームステイで受け入れ
- ニ. 英国ミドルズブロウ市教育局との交換留学
今年度は受入の年で青少年を中心に7名を3週間ホームステイで受け入れ
- ホ. 青少年国際交流推進派遣
ドイツベルリン市、キール市およびリュベック市に、学校や社会施設等の訪問や教育関係者との意見交換等の交流のため、高校・中学の教員を中心に9名派遣

②外郭組織援助

事業に協力する組織の育成を図り、事業の中核として当財団に寄与する人材を育成することを目的として、海外派遣経験者の会および受入家庭経験者の会に援助

③海外研修助成

適正な他団体のアジア地域およびアメリカ合衆国への研修派遣参加を希望する生徒・学生に、その内容を審査したうえで費用の一部を助成

④国際交流他団体助成

- イ. (財)国際教育映像協会が小学生・中学生・高校生を対象に行っている「留学生が先生」教育プログラム費用の一部助成
- ロ. 都立高校国際交流事業助成
学校の事業として継続的に国際交流事業を実施して間もない都立高校を対象にその費用の一部を助成
- ハ. その他の団体助成

2. 社会教育事業

①公開文化講座の開催

9回実施する。そのテーマは3ページを参照

②都立小山台高校プラスバンドの都民公開コンサートへの助成

3. 学校教育事業

①都立小山台高校への助成

進路・学力向上関係、学校PR関係、運動会・合唱コンクール等の行事関係、夏季合宿・部班活動関係、講習会・コーチ指導関係、その他

②中学校向け事業への助成

③育英事業

- イ. 一般奨学金
旧第1学区を中心に都立高校生44名に年間15万円、合計660万円を給付
- ロ. 緊急奨学金
緊急に援助が必要になった生徒に対して、5名の枠内でイ.と同様に給付

4. その他

- ①広報
会報を年1回発行、業務・財務に関する情報をホームページで公開
- ②会議室・ホール等施設を開放
- ③その他

〈収入の部〉		〈支出の部〉	
科目	金額	科目	金額
前期繰越額	81,356	事業費	61,625
財産運用収入	96,980	国際交流事業	32,444
その他収入	8,110	社会教育事業	1,620
		学校教育事業	23,761
		小山台高校助成	15,101
		中学校向け事業	1,260
		育英	7,400
		広報費	1,800
		その他	2,000
		管理費	50,350
		減価償却等引当金	16,106
		予備費	58,365
合計	186,446	合計	186,446

平成16年度 国際交流事業

リーダーとしての決意

英国語学研修派遣団リーダー 鈴木 健介



私は、この英国語学研修に参加するに当たって、以下の2つのことを決意した。

第1は、リーダーとして団員のモチベーションを維持することである。私たちは英国のボーンマスについての瞬間、各々タクシーで各ホームステイ先に連れて行かれる。たった一人で尚且つ全く訳のわからない状態で、ホームステイが始まる。このような状況になれば、期待で胸を躍らせていた団員も、一気に不安で胸がいっぱいになる。そのため英国での生活に慣れるまでの間、皆のモチベーションを維持し、自分から積極的に行動させるようにする必要がある。この点は、団員一人一人の話を聞き、アドバイスをしながら、自分のことは自分でするように仕向けることによって、達成できたと思う。

第2に、日本では出せる私の個性を、英国でも出すことである。日本語では感情を込めることができるが、昨年、英語で話したときは「英語を話している」という意識が働いてしまい、会話に感情を込める余裕がなかった。そのため、日本の友達の前で出せる自分らしさが出せなかったと感じたからである。これには非常に苦労したが、帰り際に友人やホストマザーが別れを惜しんで泣いてくれたことから、昨年以上にコミュニケーションが取れるようになったと感じた。

最後に去年は団員として、また今年はリーダーとしてこの英国語学研修に参加できたことは、非常に幸運なことであり、私を選んでくれた財団関係者の方々に対して、厚く御礼申し上げたい。また、この経験を今後の進路に役に立てていきたいと思う。

リーダーとして

ドイツ交換留学派遣団リーダー 村岡 美代子



4年前の7月私は高校2年生で、初めての海外派遣に対して胸を躍らせ、同時に不安で胸が詰まる思いでした。海外に行った経験すら一度もなかった私は、向こうでの生活をうまく想像できませんでした。ただ毎日のようにラジオのドイツ語会話を聞いていました。そうして気付いたらドイツにいて、あっという間に帰国の日を迎えていました。歓迎に喜び、うまく意志疎通のできない自分に悔しさを覚え、一人で不安になり、ファミリーの優しさに温かい気持ちになり、その別れに涙しました。一日一日が大きくて、

でも目まぐるしくて、帰国時の疲労感は相当なものでした。しかしそれとともに、大きな充実感を握っていました。今回、第6回ドイツ派遣のリーダーという素晴らしい経験をさせていただき、財団関係者の皆様、その他ご協力いただいた皆様に変感謝しております。この会報発行の頃には、皆帰国して思い出を語りあっていることと思います。しかし、今、これから行くリーダーとして団員に言いたいのは、完璧ではなくて良いということです。英語が下手だって、考え方が子供だって良いと思います。大切なことは、ドイツで何かを得ることなのです。それは一人一人異なるもので、言葉にしたら小さなことに聞こえるかもしれませんが、海外派遣の意義はそこにあると思っています。私は、ドイツ団全員が何かを得られると、自信を持って言えます。そして、それが少しでも充実するよう皆を見守ることで、私を含めた全員が成長して帰ってくることを楽しみにしております。

家庭(地域)教育の実態と保護者との交流を

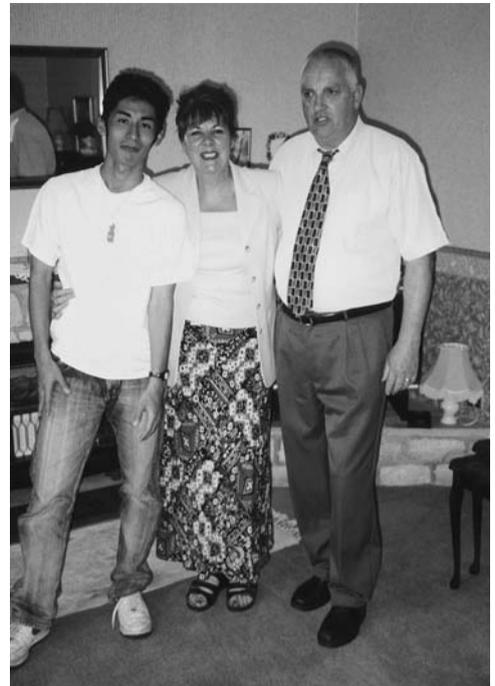
青少年国際交流推進派遣団長 糸瀬 敬一
都立小山台高等学校PTA会長



都立小山台高等学校のPTA会長として3年目を迎え、さらに身の引き締まる思いです。昨年度は本校創立80周年記念式典ならびに祝賀会が財団法人小山台のご支援のもと盛大に開催できたことをあらためてお礼申し上げます。

さて、本年度の青少年国際交流派遣推進団の団長として、参加できることに緊張しています。団員の皆さんはいずれも教育者として実績を積まれた先生方ですが、私はPTAの代表という立場での参加ですので、自分なりにドイツの風土や文化の吸収と家庭教育の実態を研修し、保護者の会(PTAのようなもの)との懇談会を楽しみにしています。8月18日に日程に加えていただきましたので、ヨーロッパの家庭や地域での教育の実態や、親・保護者の学校に対する要望などについて意見交換したいと思っています。

日本でも最近では青少年の思考や行動も、私たち大人の高校時代とはかけ離れており、保護者の皆さんも学校やPTAに対するかかわり方や考えも多様化しています。これからの家庭教育のあり方やPTAの運営、学校との協力関係等で大きなヒントがいただけるのではないかと期待しています。ヨーロッパ社会は自己責任の社会と聞いておりますが、これからは日本社会も馴れ合いの社会では通じない状況です。国を離れて外側から見るとPTAや学校の実態もよりわかりやすく見えてくると思います。これまでの交流派遣事業をさらに発展させるためにも大いに見聞を深めたいと思います。



ボーンマス語学研修・ホームステイ先にて



ドイツ交換留学・コリンにて



イギリス受入・日光戦場ヶ原にて

平成16年度 公開文化講座のご案内

平成16年度は公開文化講座は9回計画しました。既に実施済のもの、締切ったものもありますが、下記の内⑥⑦は現在も募集中です。往復はがきでの申し込みとなりますが、詳細は財団にお問い合わせください。

*既に実施済、締切済のもの

- ① すぐに役立つコーチングセミナー……………講師 田中 イブキ
「これであなたもコミュニケーション上手」
- ② カラーセミナー(似合う色パートⅡ)……………講師 青木 みどり
- ③ 実演付き講演「腹話術への招待」……………講師 山本 一男
- ④ 歴史散歩(1) 下町根岸……………講師 手島 宗太郎
「新5千円札 樋口一葉所縁りの地」
- ⑤ 歴史散歩(2) 内藤新宿……………講師 手島 宗太郎
「新千円札 野口英世所縁りの地」

*現在募集中のもの

- ⑥ 11月13日[土] 14:00
鐘(梵鐘)について……………講師 香取 孝彦
- ⑦ 11月27日[土] 14:00
レクチャー コンサート「日本の歌曲を歌う」…出演者 青山 恵子
講師 元NHK音楽番組チーフディレクター 大塚 修造
- ⑧ 1月22日[土] 14:00
古事記「現代に生きる古事記の神々」……………講師 玉川 千里
- ⑨ 2月19日[土] 14:00
レクチャー コンサート「世界の愛唱歌」……………出演者 山田 実
講師 元NHK音楽番組チーフディレクター 大塚 修造

小山台高校の今・将来

—着任2年目を迎えて—



都立小山台高校
校長
高橋 ヨシ子

夢を3年ぶりに実現してくれた。

定時制課程においては、1学年2学級規模は維持できたが、生徒数の減少に見舞われ、新入生の7割が不登校傾向という状況の中で「ゆっくり、じっくりの学び」を通して基礎学力の定着、適応指導、学校への帰属意識の向上を目指し歩みだしたところである。

校長が自校を自画自賛し、現状に満足しているは経営はどうなるかというお叱りをいただくが、しかし都立高校の中で、学校よりは予備校へ、あるいはアルバイトへ、そして部活動はほどほどに、という状況を聞くにつけ、小山台

の生徒たちのもつエネルギーと前向きな取組み姿勢に感動する。

ところで、今年の夏の暑さは正直にいうと異常である。地球温暖化、ヒートアイランド現象で、クーラーなしの学習環境は耐え難い。文明が発達すれば「耐性」が低下すると説いたのは、動物行動学者のコンラド・ローレンツだが、この厳しさに耐えて頑張っている生徒と教職員の姿を見るにつけ、なんとかして冷房化し、快適な環境下で学習させたいと熱望するが、その思いはなかなか実現できないでいる。しかし私たちには、財団法人小山台、小山台会館という、他校に誇るべき素晴らしい宝があり、その幸せに日々感謝するのみである。

さて、本校にとって当面の課題は、平成16年度から3年間「東京都重点支援校」として指定され成果を上げることである。指定による人的・物的支援は大いに魅力的だが、なんと言っても「学力向上・進学実績の向上」「文武両道の伝統校の復活」という明確な目標に向かい、生徒の成長を見取りながら自律的に学校改革に取り組むことである。本校への入学を選んだ生徒たちに、高校生活への満足度を高めつつ、高い学力を身につけ、理想を追究して進路希望を

実現させていく。そのため、英語・数学の習熟度別学習の実施をはじめとし、補習・補講の拡充、生徒のきめ細かい実態把握など、教職員の叡知と努力を結集して取り組んでいくことになる。更なる学力向上、進学実績の向上のため、知性を磨き、感性を豊かにするとともに、生徒が進路を主体的に考え、進路選択を可能にする潜在的な力を育てる、学校としての雰囲気づくり、環境づくりが今こそ重要である。

そして生徒にとって、「小山台」が単なる通過点となることもなく、「小山台」での学びが生徒一人一人にしっかりと根付き、「小山台」で刻む成長の軌跡に確かな手ごたえを味わい、それらが確固たる「生き抜く力」となって、社会の第一線で活躍する「器」に育っていく、そういう「小山台」でなければならないのである。

今年度から校長の作成する学校経営計画が東京都や各学校のホームページで公表し、経営結果が評価されるという、学校経営が都民に開かれた時代となった。また、生徒による授業評価が全都立高校で実施され、生徒の声に耳を傾けながら授業を組み立てていく時代ともなった。

厳しい批判や力強いご支援を受けながら、進学実績向上や文武両道の伝統校復活という明確な方向性と計画性を示しつつ、一方で伝統校「小山台」ならではの独自性と柔軟性をもって、生徒の一層の成長のために努力したい。今、そんな思いでいっぱいである。

平成16年度 海外交流事業参加者

英国語学研修派遣団 (21名)

○はリーダー

				(出身中学校)
桜井 沙由理	女	小山台高全1	葛飾区立青葉中	
木村 百合子	女	〃 全1	大田区立馬込東中	
新 寛之	男	〃 全1	品川区立荏原第二中	
姫野 水遙	男	〃 全1	大田区立馬込東中	
西郷 和善	男	〃 全1	大田区立志茂田中	
三戸 大輔	男	〃 全1	大田区立志茂田中	
柳原 くるみ	女	〃 全1	目黒区立第七中	
周 凡瑜	女	〃 全1	港区立三田中	
田中 悠子	女	〃 全1	目黒区立第七中	
文字 竜太	男	〃 全2	大田区立御園中	
高田 明日美	女	〃 全2	大田区立東調布中	
田中 悠浮	女	〃 定4	品川区立大崎中	
坂下 雅子	女	〃 定3	品川区立荏原第二中	
内村 昭広	男	立教大2	大田区立羽田中	
城村 遊	男	都立大3	大田区立安方中	
杉田 薫	女	日本女子大3	大田区立御園中	
内山 奈月	女	立教大2	大田区立東調布中	
今田 麗	女	日本女子体育大1	大田区立馬込東中	
三角 康晴	男	日本大3	品川区立城南中	
高橋 智子	女	神奈川保健福祉大2	大田区立御園中	
○鈴木 健介	男	財団指名リーダー		

ドイツ交換留学派遣団 (10名)

○はリーダー

				(出身中学校)
近藤 亜沙美	女	小山台高全1	品川区立城南中	
石川 結梨奈	女	〃 全1	大田区立六郷中	
田邊 麻未	女	〃 定4	大田区立大森第六中	
吉田 規朗	男	東京外語大2	世田谷区立用賀中	
伊藤 太郎	男	成城大3	品川区立戸越台中	
斉藤 太一	男	明治学院大3	品川区立荏原第三中	
池田 詩織	女	明治薬科大2	目黒区立第七中	
石井 麻奈美	女	慶應義塾大1	大田区立大森第二中	
清水 宏展	男	電気通信大3	品川区立荏原第五中	
○村岡 美代子	女	財団指名リーダー		

青少年国際交流推進派遣団 (9名)

1. 糸瀬 敬一	団長	都立小山台高校全日制PTA会長
2. 吉田 計雄	団員	都立小山台高校教諭 (数学)
3. 久保木 達也	〃	都立小山台高校教諭 (数学)
4. 吉田 幸代	〃	都立小山台高校教諭 (英語)
5. 滝澤 昇	〃	都立小山台高校教諭 (国語・図書部)
6. 山崎 由美恵	〃	品川区立荏原第五中学校教諭 (英語)
7. 峰岸 誠	〃	大田区立東調布中学校校長
8. 佐久間 和枝	〃	財団法人小山台評議員・社会教育事業部会員
9. 岸本 博道	随員	財団法人小山台理事・事務局長

英国ブリッドポート交換留学受入学生・受入家庭 (7名)

○はリーダー

(受入学生)	(受入家庭)	
Norman Seb	関 豪	(15年英国派遣)
Palfrey Lydia	細田 恵	(〃)
Pitcher Eleanor	藤本 瞳	(〃)
Watson Connor	国分 秀平	(〃)
Chatham Josh	安島 裕輔	(〃)
Tattershall Jade	浦野 康子	(〃)
○Gale Debbie	高野 美穂子	(あけぼの会)

英国ミドルズブロウ交換留学受入学生・受入家庭 (7名)

○はリーダー

(受入学生)	(受入家庭)	
Gibson Paul	沢松 智慧	(15年英国派遣)
Rooney Jessica	増田 葉奈	(〃)
Rooney Sarahjane	戸田 友萌紗	(〃)
Quinn Anthony	本田 篤	(〃)
Lodge Claire	森山 紗央里	(〃)
Gibson John	渡辺 亮	(〃)
○Morris Dave	佐々木 千晶	(国際交流部会員)

ドイツ高校生1名が小山台高校2年に短期留学

交換留学の提携校のベルリンのカンジウス校から、セバスチャン ツイングラー君が9月から11月までの3カ月間、今年度のドイツ派遣団リーダーの村岡美代子さんのご家庭のご好意でホームステイしながら、小山台高校2年生に短期留学して国際親善に寄与しています。

編集後記

当財団事業の最大の柱である国際交流事業は、開始以来12年目を迎えて、海外に派遣した青少年は300人を超え、一方海外から受け入れた青少年は100名を超えるまでになった。この事業が日本の国際親善に少しでも役立つ、経験後の青少年の一回りも二回りも成長している姿を見ることは大変嬉しいことである。また、当財団の有力支援校である小山台高校は、東京都重点支援校に指定され、高橋校長のもとで成果を上げるべく努力されている。

日本経済の回復期待から、一時長期金利の2%を目指す上昇が見られたが、ここに来て景気回復の鈍化の兆がみられ、日銀の「量的緩和の解除時期が遠のいた」との観測から、長期金利は再び1.5%前後を低迷している。収入の殆どを資産運用収入に依存している当財団としても、青少年の育成のための事業を益々発展・充実させるために、景気の本格回復による良い金利上昇を大いに期待している。

(理事・事務局長 岸本博道)